

平成24年度 佐賀県学習状況調査、全国学力・学習状況調査結果の分析について

平成24年4月16・17日に、中学3年生を対象とした「佐賀県学習状況調査」、「全国学力・学習状況調査」を実施しました。

関係教科及び学習・生活に関する調査結果を分析し、改善に向けた取り組み事項をお知らせします。今後、さらに生徒の学力向上を図っていききたいと考えています。

1 佐賀県学習状況調査

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
社会	本校と県の正答率の比較では、本校は県より大きく下回る結果となっている。到達基準の分布でも「要努力」に位置する生徒が県よりも多く、「十分達成」「おおむね達成」の生徒は県よりも少なくなっている。特に「近世の日本」「さまざまな面からとらえた日本」の正答率が、県よりも相当低くなっている。観点別では、「思考・判断」の力が備わっていない生徒が多い。	1、2年次の学習が身につけていないため、毎日の家庭学習や夏休み等で、歴史・地理分野の基本的事項の課題を出して振り返りの学習を実施していききたい。また、観点別の三観点でいずれも県を下回っているため、基本的な事項の習得を第一としながらも、ICT等を利用して、豊富な資料や考え方に触れさせ、特に「思考・判断」の能力を向上させたい。
英語	本校と県の正答率の比較では、本校は県よりやや下回る結果となっている。到達基準の分布では、「十分達成」の生徒の割合が県よりも少なく、「おおむね達成」「要努力」の生徒の割合が多い。昨年度は領域別分析において「書く力」が県よりも大きく下回っていたが、今年度は改善が見られ、全体的な力の伸びが見られる。	書く力をつけるために、昨年度から定期テストで英作問題を予告問題として与え、テスト前に添削し、自分の言いたいことを表現しようとする事への抵抗を少しでもなくす取り組みをしてきた。また、授業中においてはグループ活動で書く活動を積極的に取り入れるようにしてきた。今後は、自分のことや考えを自由に表現する機会を与えて、英語力を伸ばしていききたい。

2 全国学力・学習状況調査

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語A	本校と県の正答率の比較では、本校は県をやや下回る結果となっている。到達度分布においては、県に比べ十分達成はやや少ないものの、おおむね達成は同等である。内容・領域では「書くこと」が県よりやや下回ったが、他は県とほぼ同じという結果であった。	言語事項については、今年度も継続して漢字テストを毎週行い、再テストで定着を図っている。文章問題を解いたり文章表現をしたりする時に、語彙が少ないと感じるので、時間はかかるが、主体的な学習のためにも辞書活用等で言葉を獲得させたい。「書くこと」への抵抗を軽減するために、場の設定や相手意識をもたせ、書き方のモデル(型)等も示していききたい。
国語B	本校と県の正答率の比較では、本校は県より大きく下回る結果となっている。到達度分布においては、十分達成の生徒が少なく、努力を要する生徒の割合が県に比べ多い。国語Aと比べ、観点別では特に、「読む能力」と「書く能力」が低くなっている。「話す・聞く能力」は県とほぼ同じである。こうしたことから、思考し記述による表現を苦手とする傾向がみられる。	「書くこと」と「読むこと」を運動させた指導が必要であると考える。思考力をつけたり、普段から自分の考えをもてるようにするためにも、昨年度に引き続き、新聞コラム等を活用した要旨の読み取り、感想を書かせることを行っていききたい。長文を読みこなす力も必要となるので、継続した読書指導の必要性を強く感じる。
数学A	本校と県の正答率の比較では、本校は県とほぼ同じ結果となっている。昨年度は県より下回っていたので、上昇傾向にあると考えられる。領域では他の領域に比べると「数と式」が少し落ち込んでいる。教科全体の到達度分布においては、十分達成している生徒は県に比べ多く、要努力の生徒も県に比べ多い。二極化の傾向にある。	授業が分かると答えている生徒は約70%おり、学習内容の定着に課題があると思われる。ワークなどを使って学習内容を定期的に復習したり、現在行っている小テスト・週末課題を続け、書き直しまで徹底させていききたい。特に「数と式」の領域は放課後などの時間を使って、補充学習を実施していききたい。
数学B	本校と県の正答率の比較では、本校は県よりやや下回る結果となっている。教科全体の到達度分布においては、十分達成している生徒は県に比べ少なく、要努力の生徒は県に比べ多い。観点別では特に「見方・考え方」が落ち込んでいる。文章問題など記述式による問題解決を不得意とする傾向がある。	「見方・考え方」を問う文章問題の指導においては、苦手意識を持たせないよう補助プリントを作成し、丁寧な指導を心がけていききたい。また、生徒の実態に合わせて個別指導にも重点を置いていききたい。現在行っている定期的な課題も、解けなかった問題には分かるまで書き直しをさせていききたい。
理科	内容領域別の正答率の傾向をみると、物理分野と地学分野については県の正答率とほぼ同じであるが、化学分野と生物分野について大きく下回った。しかし、物理分野では、「十分達成」にはとどいていないが県の正答率を上回った。評価における4つの観点の中では「科学的な思考・表現」が最も下回っている。	正答率の下回った領域を中心に、学習単元の区切りなどを利用し、問題の演習を行い実力の養成をしていく必要があると考える。科学的な思考・表現については、実験等における結果の処理や考察について考える場面の設定をし、人に伝えることを頭において表現させるようにして力をつけていききたい。